

イギリスの教育の動き

—2002年8月から2003年5月まで—

2002年 8月1日(金) デヴィッド・ミリバンド学校水準担当閣外相は英才児のための最初の夏季学校を訪問した。エステル・モリス教育技能大臣はICTの利用を通してリテラシー、ヌメラシーなどの基礎的なスキルを開発すべきであるという報告書を歓迎した。

5日(火) ミリバンドは教師の数が過去20年間で最大になったと発表した。**6日(水)** 教育技能省より地方教育当局に向けて遠足のより大きな安全性を確保するための補足的なガイダンスが発表された。その内容を懸念する向きもある(BBC)。**15日(金)** A SレベルおよびAレベル試験の結果が発表され、スティーヴン・トゥイッグ教育担当次官は生徒と教師たちの達成に敬意を表明する。／資格カリキュラム機関のスタッフズ議長はAレベルの制度はきわめて手ごわいがよく機能していると述べて現行の制度を擁護した。**21日(木)** マーガレット・ホッジ生涯学習・高等教育閣外相は60万人を超えるGCSEとGNVQの受験生が好成績を収めたことを祝賀した。これに対し採点が厳しくないのではないかという疑問も寄せられる(ES)。**22日(金)** QCAのスタッフズはGCSE試験が16歳の時点での学習の前進を点検する価値ある機会であるとしてその意義を称えた。**23日(土)** 犯罪歴記録局の作業が遅れており、学校のスタッフの採用に影響が出そうだと各紙・各教員団体が指摘する。**28日(木)** シンクタンクである社会市場財団SMFは20年以内に児童の貧困をなくすというブレア首相の公約は政策の転換がない限り実現困難であると指摘した(BBC)。**29日(金)** キャサリン・アシュトン学校担当次官は学校におけるコンピューターが過去最高の数になったことを歓迎した。

9月4日(水) 犯罪記録局の事務の遅延により、多くの学校が臨時教員の履歴を確認できず、スタッフの不足の問題が深刻化する。**5日(木)** モリスが履歴調査の遅延について学校に書簡を送る(GTC)。**13日(金)** QCAがAレベル試験の採点における等級付けをめぐる混乱についての調査を開始する。**16日(月)** Ofstedは地方教育当局の学校への支援は改善されているが、それが生徒の水準の引き上げに効果を上げているところまでは立証されていないと述べた。／保守党とLDPはAレベル試験の問題を重視する発言を行う。**17日(火)** モリスは教育技能省における閣僚チームの新しい役割分担を発表した。大臣の下でデヴィッド・ミリバンドが学校水準担当閣外相、マーガレット・ホッジが生涯学習・高等教育担当閣外相、キャサリン・アシュトンがシュア・スタート(社会的不利益を受けている幼児に対する教育・保育・保健・子育て等を総合して推進するイニシアチブ)・幼児教育・保育担当政務次官、イヴァン・ルイスが成人学習・技能担当政務次官、スティーヴン・トゥイッグが青年・学習担当政務次官を勤めることになった。また

トゥイッグはロンドンの学校(改善)戦略の責任者となった。/セーブ・ザ・チルドレンはイングランドとスコットランドの子どもたちの生活の質が彼らの住所によって大きく異なっていると指摘する(BBC)。**18日(水)**モリスは経営者たちが若者と成人の教育と訓練についてもっと発言すべきであると述べる。首相官邸もこの意向を支持する。

19日(木)モリスは14歳の時点での成績がさらに改善されたことを歓迎した。/モリスはASレベルおよびAレベル試験をめぐる,QCAが試験結果の格付けの「調整」に関与したとの告発を受けて、独立の調査をマイク・トムリンソン前首席勅任視学官に依頼する。**20日(金)**ホッジは継続教育の教師と支援スタッフの給与引き上げのための新たな出資を発表した。/QCAは試験実施団体であるOCRの行ったAレベルの格付けをめぐる問題はなかったとの調査結果を報告する。**23日(月)**NUTはASおよびAレベル試験をバカロレアと取り替える改革は総合制の教育を崩す恐れがあるとの懸念を表明した。**25日(水)**経営者たちは産業の各部門でのスキルの不足と取り組むために訓練と企業のニーズを結びつけるための新しい役割を演じるべきだと主張した。

26日(木)モリスは7歳と11歳の児童の数学と英語における成績が記録的な前進を示していると発表した。これに対し保守党はリテラシーとヌメラシーをめぐる政府の公約が達成できていないことを指摘して、モリスの辞任を求める。また教員組合であるATL,NASUWTも批判的なコメントを発表する。**27日(金)**トムリンソンがAレベル試験をめぐる調査の第一段階の結果を報告し、カリキュラム2000による試験制度には構造的な問題があると指摘する。/モリスはQCAのウィリアム・スタップズ議長を解任する。/Ofstedは中等学校・カレッジにおける教科の視察のためのガイダンスを発表する。/地方政府連合LGAは地方の70%が年6学期制を支持していると発表した。**30日(月)**首相官邸は2001年の国勢調査の結果、連合王国の人口は58,789,194人であったと発表する。/また、親たちが子どもたちと一緒に歩いて学校に行くことを勧める。

10月1日(火)試験の混乱の結果、リーグ・テーブルの発表が遅れそうだと報道がなされる。**2日(水)**トムリンソンはAレベル試験をめぐる調査について補足する書簡を公表する。ASおよびAレベルを合わせて31科目で等級の付け直しが行われることが明らかになる。**8日(火)**ミリバンドはブライトンで独立学校と公的部門の学校とのパートナーシップを推進すると演説する。/Ofstedはエスニック・マイノリティーの生徒たちの成績を上げるためには教員の研修のさらなる充実が必要であると指摘する。/ルイスは英国教育通信技術機関(BECTA)の長にデヴィッド・ハーグリーヴズを任命した。

9日(水)トゥイッグは政府の無断欠席に対する取り組みを訴追手続の迅速化などにより強化すると発表した。ATLは親たちを取り締まるよりも、支援することの方が重要であるとの取り組みを批判する。BBCは取り組みには前進が見られていないとの報道を行う。**10日(木)**QCAのケン・ボストン事務局長は大会の席上で試験制度の根本的な見直しが必要であると述べた。**11日(金)**Ofstedはその報告書『成功を収めてい

る初等学校におけるカリキュラム』において全国リテラシー戦略、全国ヌメラシー戦略の実施にかかわらず、初等学校のカリキュラムは児童にとって過重なものではなく、水準の引き上げに貢献しているとの結論を発表した。12日(土)自分たちの学校での行動を注意した教師に対し殺すぞという脅しを執拗に繰り返して、学校から排除された生徒たちの親が問題を法廷に持ち込むかもしれないと報道される(G)。14日(月)(ロンドン大学)インペリアル・カレッジとユニヴァーシティ・カレッジが合併のための話し合いに入ったと報道される(G)。15日(火)モリスはトムリンソンによるA-レベル試験の疑惑をめぐる調査についての調査結果の報告を歓迎する。16日(水)教育技能省が子どもたちは安全で刺激的な遊び場所を必要としているという遊びについてのレビューの結果を公表する。／殺すぞという脅しをした生徒たちが抗告の結果復学の裁定を得たことについてスタッフは争議行為を構えようとする(NUT, G)。17日(木)モリスは教育をめぐる数値の改善をさらに推進するために余分の出資を行うことを公約する。／殺すぞという脅しの結果排除された生徒たちはもとの学校に復帰しないことを決める(G)。

21日(月)Ofstedは授業時間外の学習支援の範囲は多岐にわたっているものの、質にむらあり、経営には改善が必要であるとの報告を行った。22日(火)モリスは教授助手の大幅な採用とICTの利用による教職の根本的再編の構想を発表する。ATL、NASUWTは前向きな姿勢を見せたが、NUTはこの提案を「あまりにも僅かでありにも遅い」と批判する。保守党は教室助手を活用する構想を懸念し、LDPは教室助手は教師の不足をごまかすことはできず、ICTはより多くの支援を必要とすると批判の姿勢を示した。この日、モリスがブレア首相に辞任の意思を伝えたが、慰留を受ける。／Ofstedは13歳から19歳までの若者を対象とする政府のさまざまな支援を統合した事業であるコネクションズの第1年度に関する報告書を発表した。23日(水)モリスはブレアに巨大な省庁の戦略的な経営が困難であること、マスコミ対策が不得意であることを理由として辞任の意思を表明する書簡を送り、首相からその決心を尊重する旨の返書を受け取る。NUTはモリスの教育に対する「巨大な寄与」を賞賛する声明を出した。NASUWTのオケーン書記長はきわめて遺憾だとの感想を述べた。労働党は彼女の功績を称え、保守党は今こそ政策転換のときだと強調、LDPは首相の影響力の排除が重要だとの見解を示した。辞任に先立ってモリスはQCAの新しい議長としてアンソニー・グリーンナーを任命した。24日(木)ブレアは、辞任したモリスの後任として労働党全国委員長であったチャールズ・クラークを任命した。25日(金)会計検査院が成人の学習を推進するためのイニシアチブであった個人学習口座についての計画が不適切で、実施が拙速であったという報告書を発表した。29日(水)Ofstedは児童保育をめぐる視察の第一年度の報告書を公表した。

11月6日(水)全国PTA協議会は無断欠席者の親に対する罰金の増額を含む厳重な方針について基本的に支持するが、無断欠席の原因となる社会的な問題を取り除くことの

方が優先されるべきであるとの見解を表明する。／Ofstedは薬物教育はもっと生徒に対し積極的な態度をとらせるような取り組みを行うべきだと指摘した。11日(月)クラークは水準を上げることに最善の成果を収めた学校により多くの自由を与えると公約した。／Ofstedの創立10周年を祝賀する行事が行われ、これまでの業績が解雇されたが、その一方でベルは一部の児童生徒の行動が水準の引き上げの深刻な障害となっている事実を指摘した。12日(火)各紙はクラークが無断欠席者の親から即決で罰金をとる制度など厳しい方針を考えていると報じる。13日(水)議会の開会に際して行われた女王演説で、教育水準の引き上げが依然として政府の主要な優先事項であること、中等教育における多様性の実現、大学教育のアクセスの改善と卓越性の建設が強調された。保守党のスミス党首は政府の提案は臆病であると非難した。／児童貧困対策集団はクラークが無断欠席者の親に対する児童給付金の打ち切りを示唆したことに対し、反対を表明した。14日(木)教師の仕事振りの経営と生徒の水準の向上の関連が十分に開発されていないとOfstedが指摘する。18日(月)首相官邸は教員養成の数値が12年間で最高を示していると発表する。／クリア・ショート国際開発相が高等教育にコースにより徴収額の異なる補正授業料を導入する政府の構想に異議を唱えていることが明らかになる(G)。／インペリアル・カレッジとUCLの合併が白紙に戻る(G)。19日(火)クラークは厳しい改革の見返りとして教育制度に記録的な出資をすると発言する。20日(水)クラークは5歳から7歳までの児童のほとんどが30人以下の学級で授業を受けていることを発表した。21日(木)ボストンは学校における煩瑣な手続を削減しようとする作業集団の報告書を歓迎する。／内務省は強力なコミュニティー建設における教育の役割について助言する新しいグループを設置した。26日(火)クラークは技能の振興における企業のパートナーシップを歓迎する発言を行う。／Ofstedは全国リテラシー戦略をめぐる多くの成果があったが、さらにいっそうの努力が必要であると指摘した。ミリバンドは全国リテラシーおよびヌメラシー戦略をめぐる新しい報告書の発表を歓迎し、初等教育の水準が順調に向上していることを強調した。／ロンドンとその周辺でNUTおよびNASUWTの組合員が生活手当をめぐるストライキを行う。27日(水)ブレアはテクノロジー・カレッジ・トラストにおける演説で学校改革は子どもたちに公正なチャンスを与えるものであると強調し、スペシャリスト・スクールの設置推進を擁護する。28日(木)ホッジは困窮している学生を援助するために財政支援を簡素化することを明らかにした。／クラークは現在5万ポンドと規定されている学校が独自に集める後援金についての規定を緩和して、すべての中等学校がスペシャリスト・スクールになる可能性を含む大規模な拡張計画を発表した。

12月1日(日)無断欠席者の親への児童手当を削減する高僧は棚上げにされたと報じられた(I)。2日(月)トムリンソンのAレベル試験をめぐる最終報告書が発表される。4日(水)クラークは省内の新しい責任分担を発表した。デヴィッド・ミリバンドが学校

水準担当閣外相、マーガレット・ホッジが生涯学習・継続・高等教育担当閣外相、ステイヴン・トゥイックが学校（福利厚生）担当政務次官、イヴァン・ルイスが青年・成人技能担当政務次官、キャサリン・アシュトンがシュア・スタート・幼児保育担当政務次官（教育技能省、勤労年金省の両省庁の次官を兼ねる）となった。／高等教育における補正授業料をめぐる閣内に分裂があることが表面化する（1）。**9日（月）**保守党は学校に対する一括予算の出資への懐疑を表明した。**12日（木）**クラークは学校における規律の悪化と混乱を防ぐために教師への尊敬と校長の権威、親の責任を強調する新しい計画を発表した。**13日（金）**ミリバンドは教員養成課程の学生を増やすための10%の予算増を発表した。**16日（月）**Ofstedは学校は臨時教員の支援のためにすべきもっと多くのことがあると指摘した。**18日（水）**クラークは外国語教育に関する全国的な戦略への取り組みを発表した。／ルイスはユース・サービスの現代化をめぐる青写真を説明した。

2003年1月8日（水）ミリバンドは毎年恒例のイングランド北部教育会議で21世紀における教職象についての講演を行った。**15日（水）**クラークは学校における労働力の改革にかかわる歴史的な協定に調印した。**16日（木）**Ofstedは保育視察における新しい格付けを発表した。**21日（火）**ミリバンドは中等・継続教育に関する会議で演説し、14-19歳の教育における卓越性と機会を強調した。**22日（水）**クラークは国際的な経済競争を支える高等教育の未来像を盛り込んだ白書『高等教育の未来』を発表した。

31日（金）Ofstedは学校視察の新しい枠組について発表した。／スペシャリスト・スクールのネットワークとして機能してきたテクノロジー・カレッジ・トラストがスペシャリスト・スクール・トラストと改称した。

2月5日（水）Ofstedは教育における水準と品質をめぐる年次報告書を発表し、相当数の若者たちが前進を見せたが、依然として改善の余地が残されているとこの10年間の歩みをまとめた。**10日（月）**クラークはスペシャリスト・スクールの増設と新しい種類の追加を通じて中等教育を改善する新しい戦略を発表した。／Ofstedと成人学習視学団ALIは14—19歳の教育の視察の枠組についての協議を発表した。**11日（火）**クラークは初等教育にかかわる政策文書『初等教育：前途の道』を公表した。**14日（金）**Ofstedは学校が新任の教師にもっと多くの支援をすべきだと勧告する報告書を発表した。**17日（月）**Ofstedは1999年から2002年にかけての全国の任意制青年組織に対する補助金をめぐる報告書を発表し、ユースワークへの参加が社会と若者の双方にとって有益であることを強調した。**25日（火）**首相官邸はモダン・アプレンティスシップの拡大が主要な産業部門におけるスキルの不足への取り組みに役立つだろうと発表した。**26日（水）**教育技能省は中等学校の校舎の増改築にかかわる協議文書『未来のための学校の建築』を発表した。／Ofstedは全国リテラシーおよびヌメラシー戦略にお

いて優れた成果を達成した学校の調査に基づく報告書を発表した。27日(木)ルイスは無断欠席,成績不振,非行の関連に触れて取り組みのいっそうの強化を訴えた。28日(金)ベルはテストにおける目標達成の過度の強調が子どもにとって有害な結果を生み出しようと発言する(BBC)。

3月3日(月)Ofstedは政府の英語および数学に関する戦略をキー・ステージ3にまで拡大する施策が効果をあげていると指摘する。11日(火)ベルはエセックスの初等学校を訪問した際に児童が視学官の仕事についてどう思っているかをたずねた。13日(木)クラークは数学の教育の改善が社会に及ぼす影響を強調し,改善計画の概要を述べた。17日(月)ミリバンドは学校における雑用の削減をめぐる計画を発表した。/Ofstedは英語を母語としない生徒たちのために彼らが英語を流暢に話せるようになって,読み書きを中心に支援を継続する必要があると指摘する報告書を発表した。/Ofstedは独立学校視学団がなお改善の必要があると述べた。21日(金)Ofstedはカリキュラム2000がもたらした16歳以後の新しい試験制度の仕組みが生徒の学習の選択の幅を広げる効果を生んでいないと指摘する報告書を発表した。/全国で約1万人の中等学校の生徒たちが授業を抜け出してイラク戦争に対する抗議行動に加わったことが取り上げられた(BBC)。25日(火)ルイスはチャイルドラインによる委託研究の成果を踏まえ,いじめ対策は子どもの意見を聞くことが重要であると発言した。/Ofstedは中等学校におけるいじめについての報告書を発表した。またチャイルドラインは研究成果をすぐに実践に移すべきだとの声明を発表した。31日(月)ショートはこの日をもって連合王国ユネスコの活動を停止した。/児童貧困対策委員会は「海外では戦争,国内では児童の貧困」との声明を発表した。/Ofstedは2001年から始まった保育にかかわる第一次の視察が完了したこと,今後は新しい品質の格付けを導入することを発表した。

4月1日(火)ルイスは児童生徒の行動と出席の改善のための施策を発表した。/学習技能委員会LSCはスキルの再建が企業と政府にとっての最優先事項であると訴えた。

2日(水)ミリバンドは教職の希望者が増えたことを示す新しい数字を歓迎し,政府の採用政策が効果を上げていると述べた。/校長の研修機関である全国学校指導者カレッジNCSLはイラク戦争は学校の中で異なる宗教間の理解を深める機会であるという認識に基づき,戦争中の学校におけるリーダーシップについて議論する会議を招集した。3日(木)ミリバンドはAレベル試験の結果を中心とする16歳以降の成績一覧表の発表により明らかになった成績の向上について,生徒と教師に祝意を述べた。一方ATLは統計がいつも真の状況を表すものではないと,結果の安易な解釈を戒める発言を行った。/NASUWTは教師が7分ごとになんらかの形で虐待を受けているとの調査結果を発表した。7日(月)政府は学校における教師の仕事量をめぐり,教授助手の役

割の引き上げを骨子とする改革についての協議に着手した。 **8日(火)** イングランドの初等学校の児童たちは読み方の国際テストにおいて先進国で第3位に位置すると教育技能省は発表した。／クラークは高等教育の拡大を実現する際の公正なアクセスをめぐる事務局 OFFA の新設を骨子とする計画を発表した。 **9日(水)** 教育技能省は新しい予算が組合学習基金の増額をもたらすと発表する。 **14日(月)** 教育技能省は雑用削減問題のための作業ユニットの設置を発表した。／下院の教育委員会の報告書は試験制度が若者たちを過度の重圧のもとに置いていると指摘した。 **16日(水)** LGA は教育予算から数百万ポンドが学校に渡らなかったと述べる。 **17日(木)** 英国産業連盟 CBI は政府は小企業の職業訓練のニーズにもっとこたえなければならぬと主張する。 **28日(月)** ルイスは学校における薬物・アルコール・タバコ対策を発表した。 **29日(火)** ベルは独立学校の視察についてまだ改善の余地があると述べた。 **30日(水)** Ofsted と成人学習視学団は継続教育カレッジが地方の雇用主のニーズにもっとこたえる必要があると述べ、特に工学技術のコースでの資格試験の合格率を高めるような取り組みを要望した。また保健・介護のコースでは教師の不足、美容・理容のコースでは現場との連携の改善の必要を指摘した。

5月1日(木) 地方選挙が行われ、労働党が後退、保守党とLDPが支持を増やす結果となった。 **9日(金)** ルイスとヒラリー・ベン刑務所担当副大臣は犯罪者教育のための新しい計画を発表した。／NCSL は秋から学校の事務長のためのプログラムを発足させることを発表した。／NAHT 全国大会はキー・ステージ1における到達水準評価テスト SATs の廃止を要求した。 **12日(月)** プレアはロンドンの学校の改革について提案、クラークはイスリントン、ハックニーなど5つのLEAを中心とした改革の概要を明らかにした。保守党はこれを「さらにいっそうのごまかし」とであると批判した。 **13日(火)** 保守党は大学の授業料は「学習に対する課税」としてその廃止を要求した。これに対しLDPは「機会主義的なごまかし」に過ぎないと批判した。／GCSE 試験の問題用紙が盗まれ、再印刷が行われた。 **14日(水)** クラークは雇用主たちに基礎的なスキルの重要性への意識を高めるよう呼びかけた。 **15日(木)** 政府の予算計画が発表された。／地方政府連合は中央政府が地方当局経由で学校に交付するはずだったが行方不明になっていると主張する数百万ポンドの金をめぐる疑惑について、各地方教育当局が迅速に回答し、中央政府の主張を論駁したことを賞賛した。 **19日(月)** 高等教育品質保証機関 QAA は成人した後高等教育を開始する人々が4万人に達したと発表した。 **20日(火)** クラークは初等教育に関する政策文書『卓越性と楽しさ：初等学校のための戦略』を発表した。キー・ステージの終わりのテストを簡素化する提案をLDPは原則的に歓迎、保守党は「失敗をごまかそうとする」ものだと批判した。 **21日(水)** ホッジは授業料をめぐる政府の政策に変更がないことを強調した。／ルイスは14-19歳の教育をめぐるさまざまな施策について若者からの意見聴取を行った。／ロンドン南部のクロイドン

にある中等学校が臨時のスタッフの給与を支払えず生徒の大半を午後帰宅させていることが明らかになった。 **22日(木)** クラークは大学入学をめぐる作業集団の権限と人選を発表した。／下院の教育委員会はスペシャリスト・スクールが他の中等学校に比べて効果的であることを示す十分な研究はなされていないとの結論を公にした。／中道左派系のシンクタンクであるデモスは連合王国の図書館事業が「ひどい低落状態」にあると発表した。 **27日(火)** 無断欠席に対して6億5千万ポンドを投入して展開された政府の厳しい措置は効果がなかったという研究成果が発表された。 **29日(木)** 教育技能省の統計によると学校からの排除が上昇しつづけていることが明らかになった。／学校での性教育は同性愛や十代の妊娠のような「論争的な」問題を扱うべきだという学者の意見が紹介された。 **30日(金)** Ofsted は学校視察のための新しいハンドブックを発表した。

以上、特に記さない限り、イングランドに関する教育の動きである。

教育技能省 (Department for Education and Skills : DfEE) プレス・ノートイス, 教育水準局 (Office for Standards in Education : Ofsted) プレス・リリース, 全国校長連合会 (National Association of Head Teachers : NAHT) ニュース・ディテールズ, 全国教員組合 (National Union of Teachers : NUT) ニュースワイア, その他各省庁, 法人, 研究機関, 教員組合, 政党, マスコミ諸機関 (ES はイヴニング・スタンダード, G はガーディアン, I はインディペンデント) の情報より作成。

佐々木毅 (国立教育政策研究所) 作成